

創立明治7年 令和4年度 紅梅小だより
開校148周年

二輪草学びのエリア



紅梅

6月号

令和4年5月31日
板橋区立紅梅小学校
校長 小宮 孝之

〇たくましい子

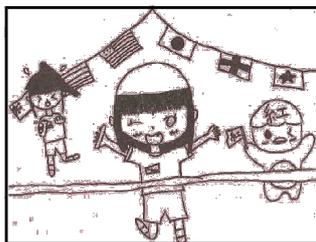
〇よく考える子

〇思いやりのある子

第1回「学習発表会 運動」の実施に思うこと

校長 小宮 孝之

5月28日の土曜授業公開は「学習発表会 運動」を実施いたしました。創立148周年の今年のスローガンは「一致団結!! ~未来へつなげ 絆のバトン~」、かっこいい言葉です。



国際化、情報化……、時代は激流のように変わっています。子供たちが今の時代、そして将来を力強く生き抜いていくために必要とされる力の定義も日々更新されています。学校教育はそれにしっかりと連動していかなければいけません。常に学び変え続ける存在でなければならないのです。

学校行事、例えば運動会もこれからの時代に沿ったものである必要があります。感染症が収束しない中、せっかく積み上げてきた練習も当日の状況が想定ができない中では、当日まで変更や中止をする可能性がついて回ります。そういうことを聞く子供の悔しさは想像に難しくありません。

また、感染症と同じく、近年の「温暖化」と呼ばれる気象状況は、熱中症、脱水症対応という新たな健康の危険を学校現場に突きつけてきました。昨年は6月の気象条件のことを「命に関わる危険な猛暑」と呼んだことはまだ記憶に新しいです。

こうした様々な条件の中で、私たちは「子供の安全」と「学びを止めないこと」を最優先に、教育活動を計画していくことにしました。「学習発表会 運動」は、こうして2年以上の議論を経て、保護者の皆様、コミュニティ委員の皆様のお考え、お知恵を伺いながら実施に至ったのです。

5月の児童朝会で、こんな話をしました。

ラグビーから生まれた言葉に「みんなは一人のために、一人はみんなのために」というのがあります。一人一人がチームのために動き、チーム全体で一人の選手のことを考えてあげる、という意味です。皆さんはこれから、いろいろなことをクラスや学年で取り組んでいきます。そうしたとき、「一人はみんなのために」という言葉を思い出し、力を合わせていてもらいたいと思います。

一人一人が、「練習は大変だったけれど頑張ってきてよかった!」、「みんなと協力してやり遂げることは最高に気持ちよかった!」という思

い、満足感は生まれたのでしょうか?次の取り組みに向けての意欲は高まったのでしょうか?

保護者の皆様には、これまで子供たちを支え、励まし続けてくださいましたことにお礼を申し上げます。練習期間中、ご迷惑をおかけすることも多かったと思います。子供たちの学習活動を温かく見守っていただきましたことに心より感謝を申し上げます。PTAや地域の皆様には当日までたくさんお世話になりました。どうも有り難うございました。



さて、1学期の後半は集中して学習に取り組んでもらいたい時期になります。勉強といえば、どうしても文字を書くことが中心になります。「うちの子は書写もノートもテストも字が汚い」と頭を抱えてしまっている親御さんも多いのではないのでしょうか。文字がうまく書けないのにはいろいろな要因がありますが、まずは視力で左右にズレがないか確認してあげてほしいと思います。たくさんの子供たちを見てきましたが、視力のバランスがズレていることで、「見えているけれど頭に入ってこない」子が意外と多かったという印象があります。こういう傾向の子、特に小さい子供は脳が像を捉えにくく、見ているものと頭の中で理解した形がズレてしまうため、イメージしている字と手書いている字が一致せず苦しんでしまう傾向があるそうです。

視力に問題がない場合は、文字の形の特徴に注目するのが苦手なのかもしれません。文字は線で構成されていますが、そのポイントとなる点を押さえるのが難しい子がいるのです。たとえば、平仮名の「あ」の一点目は、少し下に膨らみます。文字の形を捉えることの苦手な子はこういう特徴に対応できず、結局思うように書けなくて、「書写が嫌い」となってしまうと言われます。漢字ドリルなどで練習をするときには、薄い字をなぞってから、白いマスにお手本を見て写して書くようになっていますが、これはとてもハードルが高いことなのです。

文字がうまく書けないことは、もちろん人の価値とは全く関係がありません。しかし、「うまく書きたいけど書けない」という子には、その苦しみを理解し、資質や能力が伸びるお手伝いをしていくことが教育の現場では極めて重要なことです。